

## 立教大学と相互協力・連携協定を締結



平成27年3月18日(水)、本学と立教大学は、教育・研究資源の相互活用を目的とした相互協力・連携協定を締結しました。

立教大学とは、2009年に「埼玉大学共生社会教育研究センター所蔵資料に関する覚書」を締結し、その後、本センターで所蔵していた戦後の市民運動・住民運動の貴重な資料を立教大学に移管するなど、教育・研究全般における包括協定の検討を進め、今回の協定締結の運びとなりました。

今後、本学から移管した立教大学共生社会研究センターで所蔵されている資料の共同利用や、FD(Faculty Development)関連事業の共同開催などを実施していく予定です。また、埼玉県との三者連携による地域貢献活動、大学院間の単位互換制度、教員による研究分野の連携・交流などの検討を進めていく予定です。

なお、締結式が立教大学新座キャンパスにおいて、本学からは山口宏樹学長、佐藤勇一理事、齊藤亨治理事が、立教大学からは吉岡知哉総長、原田久副総長、塙本伸一副総長が出席の下、執り行われ、吉岡総長は「これから時代は、国公立大学と私立大学の協力関係は非常に重要だと思います。埼玉大学は、同じ埼玉県にキャンパスを置く唯一の国立大学。本学としては理工学系が強い埼玉大学との連携は楽しみ」と述べ、山口学長は「締結を機に、お互いに強いところは伸ばしあうなど、相互に高め合えればいい」と今後に向けた期待を述べました。



協定書にサインする山口学長と吉岡総長

埼玉大学／読売新聞さいたま支局 共催

## 埼玉大学連続市民講座 part6「過去から見える、埼玉の未来」を開催します

- 開演／14:00～(開場／13:00)
- 会場／埼玉大学全学講義棟1号館3階1-301講義室
- 定員／350人(定員を超えた場合は別室にてモニター受講となります)
- 対象／どなたでも受講できます。高校生、大学生の皆さんも是非ご参加ください。
- ※全4回受講された方には「修了証」「全講演録(合冊版)」を差し上げます。
- 問い合わせ先／埼玉大学総務課 TEL:048-858-3927・3005

第1回	6/ 6 土	中村 大介	弥生時代のガラス交易と関東地方
		大学院人文社会科学研究科准教授	
第2回	6/27 土	大石 直樹	渋沢栄一が目指した企業と社会
		大学院人文社会科学研究科准教授	—近代化150年に向けて—
第3回	7/18 土	清水 亮	武蔵武士と源平内乱の時代
		教育学部准教授	—畠山重能・重忠父子と源氏・平氏—
第4回	8/ 8 土	窟田 陽一	景観に刻まれた技術の足跡
		大学院理工学研究科教授	



受講料無料／事前申込不要



人文社会科学研究科  
Graduate School of Humanities and Social Sciences

## 共生のVision

知と技を社会につなぐ



## 大学院人文社会科学研究科がスタート！

大学院人文社会科学研究科は、社会の変化に対応する総合的な学びと研究の場を提供するために、これまでの文化科学研究科と経済科学研究科を統合する形で、平成27年4月、新たなスタートを切りました。

これまでの教育や研究をベースに、体系的なカリキュラムとさまざまな教育のプログラム、丁寧な研究・論文指導を通じて、グローバルな視点で文化やビジネスの領域で幅広く活躍できる、現代社会に貢献する人材を育成します。



### CONTENTS

- PREVIEW POINT 学内外協働による、社会で活躍する理工系博士人材の育成機能強化 01-02

- ここに注目! CLOSE UP パレスチナ問題の淵源となったシオニズムの歴史に社会学的に迫る 03

- Message from a graduate 卒業生からのメッセージ 04  
落語家 三遊亭彩大

- Information I 埼玉大学学生後援会は埼大生を多方面から支援しています 05-06

- The Focus 留学生インタビュー 07-08

- Focus of activation 埼玉大学の主な出来事 09-10

- Information II 11

# PREVIEW POINT

## 学内外協働による、社会で活躍する理工系博士人材の育成機能強化

埼玉大学改革構想「学部の枠を越えた再編・連携による大学改革」がスタートして約1年が経過し、「研究力強化」「人材育成の強化」を両軸とした、大学機能の質的・量的レベルアップ策が着実に実行されています。この改革プランの目的は、大学としての基盤を固め、足腰の強い大学をつくることにあります。そしていま、同プランの実行と併行して埼玉大学に求められているのが、埼玉大学独自のプランディング構築です。全国の国立大学と比して個性のある強みを持つことが喫緊の課題となっています。その課題をクリアすべく、埼玉大学では2015年3月、新たな機能強化プランを策定・発表しました。



埼玉大学長 山口 宏樹

### 01 博士課程の在り方自体が、日本の大学全体の問題になっている。

埼玉大学に限らず、いまの日本の大学において理工系博士課程進学者の減少が問題になっています。原因はいくつか挙げられます。大きな要因として修了および学位取得後のキャリアパスが限定されてしまうことが考えられます。博士課程では

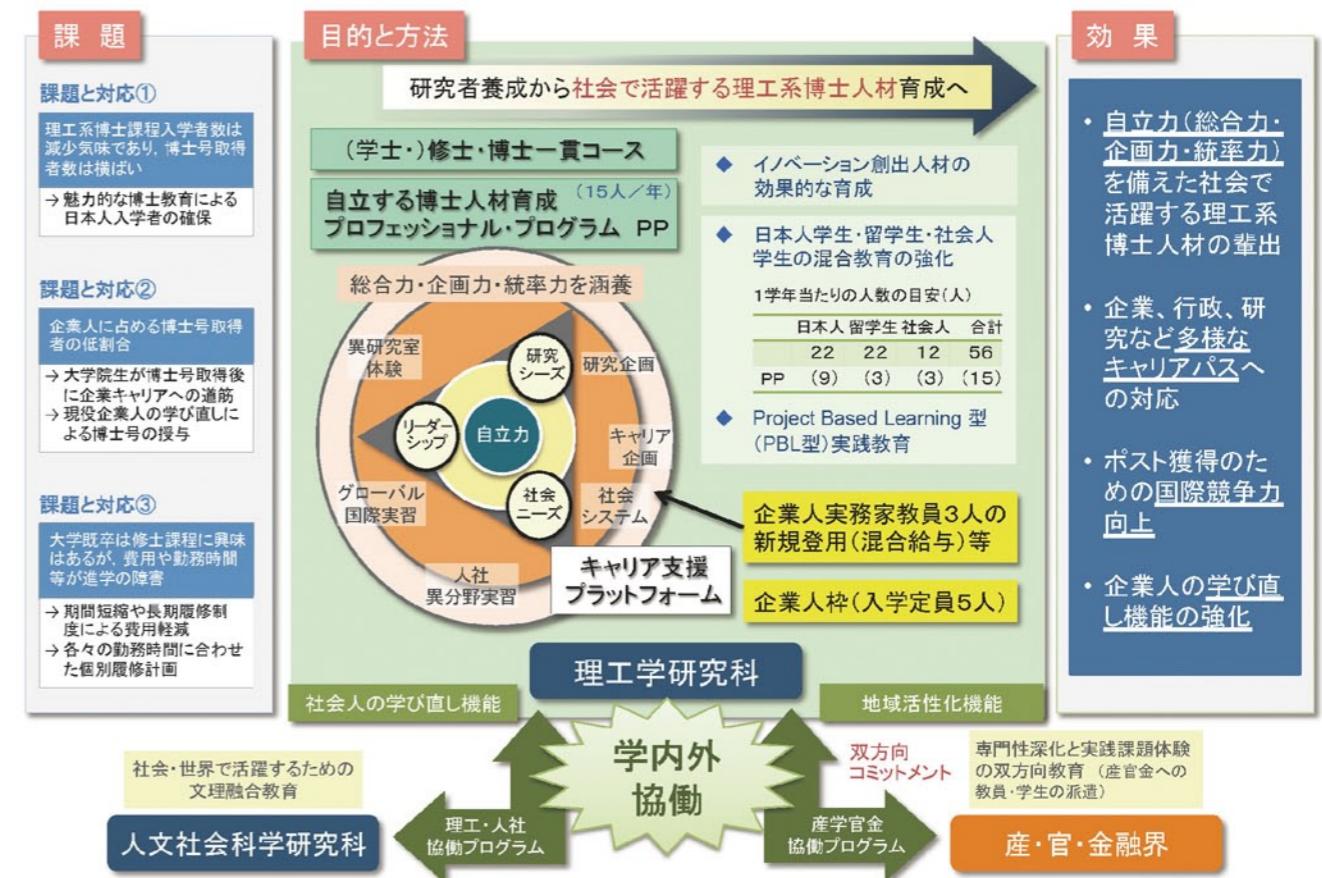
伝統的に指導教授とのマンツーマンで特定テーマを深く掘り下げる研究が行われています。その研究成果と蓄積された知識・技能は評価されるものの、その後の進路として一般企業で活かされることはない。有用な人材を輩出することで地域社会への貢献も実現させてゆく考えです。



### 02 実社会で役立つ自立力(総合力・企画力・統率力)を養う。

具体的には、第一に社会や企業に必要とされる知識・能力を養成する実践型教育の実施。これまでの専門深化型と併行して人文社会科学研究科との協働で経営学、異文化理解等の人社系科目を履修させ、また企業人実務家教員を登用して、理工系企業実務の理解を促進します。さらに留学生、社会人学生との混合で行うPBL(Project Based Learning=課題解決型学修)型実践教育を通じ、グローバル社会で通用するスキルを修得させるなど、さまざまな側面からイノベーション実社会で役立つ自立力(総合力・企画力・統率力)を養うプログラムを用意します。

第二に、地域産業界、官界、金融業界との深い双方向コミットメントの構築です。前述した企業人実務家教員の登用は埼玉県内の企業を優先し、そのつながりを発展させた共同研究、学生のインターンシップ派遣、当該企業社員の社会人ドクター受入れといったオプションも加え、深く強い協働プログラムを推進する考えです。これらは国の進める「地方創生」施策にも関係し、埼玉大学が地域活性化機関としての役割をも積極的に担うというひとつの機能強化の方向性として位置付けられます。



### 03 産・官・金融界の協力を仰ぎつつ、魅力ある埼玉大学づくりを推進。

前述したことが機能してゆけば、社会に有用な博士人材が育ち、自ずとキャリアパスも開けてゆくことになります。そして魅力的な博士課程プログラムとして修士課程からの進学者増加、また社会人学生の入学増に導けると考えます。

学内外協働により地域に有用な博士人材を輩出し、地域活性化拠点としての役割

を果たすことで埼玉大学の魅力・強みのひとつは醸成されます。しかし最高学府としての大学の本分も全うしなくてはなりません。先にスタートした「学部の枠を越えた再編・連携による大学改革」の研究力強化も強力に推進し2個性あふれる研究を一層輝かせ、「理工系博士人材育成」を両輪とした、魅力ある埼玉大学づくりに産・官・金融界の協力を仰ぎつつ励んでゆく所存です。

ここに  
注目!  
CLOSE UP

## パレスチナ問題の 淵源となった シオニズムの歴史に 社会学的に迫る

研究機構研究企画推進室

鶴見 太郎 準教授

Taro Tsurumi

祝受賞 2015年  
日本学士院学術奨励賞



### ユダヤ人のシオニズム運動の起源に興味

私が研究の主軸に据えてきたのは、ロシア帝国系(その崩壊後はロシア語で活動を続けた)ユダヤ人のシオニズム運動です。シオニズム運動は、19世紀末のロシア帝国に始まり、他の欧米地域のユダヤ人も参加しながら拡大していった、パレスチナにユダヤ人の民族的拠点を設置しようという運動です。これによって多数のユダヤ人がパレスチナに流入し、第二次大戦後にイスラエルという国家を樹立したわけですが、その際、先住民であるアラブ人、のちにパレスチナ人と呼ばれるようになっていった人々との対立が決定的になりました。

シオニズム運動の発生については、これまで、汎ヨーロッパ的な文脈で理解されることが大半でした。19世紀末から拡大した反ユダヤ主義や、同時期のナショナリズム運動の流行に呼応して動き出したという理解です。それに対して、私はロシア帝国という枠組みを重視し、かつ社会学的なメカニズムに光を当て研究してきました。その成果が、拙著『ロシア・シオニズムの想像力—ユダヤ人・帝国・パレスチナ』(東京大学出版会、2012年)です。

こうした研究に着手したのは、差別に遭っていたユダヤ人が、シオニズムを思い立つ際の論理が非常に印象深かったからです。例えば、レオン・ビンスケルという初期のロシア系シオニストが書いた「自力解放」という短い書物があります。この本が書かれた1882年の前年に、ユダヤ史のなかでは大きな事件として記憶されているボグロムがロシア帝国南部を中心に吹き荒れました。ボグロムとは、ユダヤ人を対象とした民間レベルでの暴力的な迫害事件のことです。ビンスケルは、さまざまな民族が混住しているロシア帝国にあって、なぜユダヤ人だけがそのような目に遭うのかを考えるなかで、次の点を指摘するにいたします。

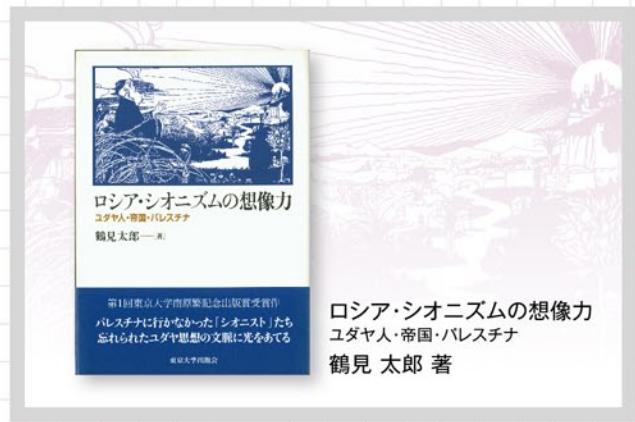
「(ユダヤ人)は友とも敵とも見なされず、単に故国がないということだけが知られているよそ者として見なされるのである。(…)(ユダヤ人は)客人ではなく、(…)(むしろ)乞食に近い。(…)(もしくは)難民である。」

### ロシア帝国におけるシオニズム研究に深化

このような捉え方は多かれ少なかれ他のシオニストの諸議論にも見られます。印象深いのは、彼が、暴力的な差別に対して批判をするのではなく、ユダヤ人自らのあり方を差別の原因に挙げている点です。いわば、差別される側に問題があると言っているわけです。彼の議論の要点は、数ある民族のなかで、ユダヤ人だけがまとまっている民族とみなされておらず、だから蔑まれているのだということです。そして、それを解消するために、自らの民族的拠点を設置し、ユダヤ人もまた立派な民族であることを示さなければならない、というわけです。

こうした発想が生まれる際に、ロシア帝国という場が強く意識されていたのではないかというのが私の説です。ロシア帝国は、1905年革命によって、民主化の方向に進む希望が広がりました。また、ユダヤ人を含むさまざまな民族の間で、自治に対する期待と要求が高まってきました。そうした波に乗り遅れないために、あるいは飲まれてロシア化をさらに迫られないために、ユダヤ人はどの民族にも還元できない独自の民族であることを示す必要があつたわけです。

以上は拙著のさわりの一つですが、現在は、そのうえで、ロシア帝国の崩壊がシオニストや他のユダヤ人にとってどのようなインパクトを持ち、それがシオニズムのその後の経路や他民族との付き合い方にいかに影響したのかを研究しています。



#### PROFILE

●2004年 東京外国语大学外国语学部卒業  
●2010年 東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程修了  
エルサレム・ヘブライ大学、ニューヨーク大学客員研究員等を経て現職

#### 受賞歴

●2011年 東京大学南原繁記念出版賞受賞  
●2013年 日本社会学会奨励賞受賞  
●2014年 日本学術振興会賞受賞  
●2015年 日本学士院学術奨励賞

#### Message from a graduate

卒業生  
からの  
メッセージ

落語家

三遊亭彩大

Sanyutei Saidai

通りがかりにフラッと入った末広亭が人生を変えた。



29歳で師匠三遊亭円丈に入門しました。28歳まで落語とはまったく無縁の人生でした。落語に興味をもったのは、たまたま友人と新宿の街を散策している最中に、新宿三丁目にある寄席「末広亭」の前を通りがかり、その風情ある建物に魅かれ、興味本位でなかに入ってみたのがきっかけです。当時、コンピュータのシステム開発の仕事をしていました。仕事はかなりきつく、鬱々とした気持ちで、毎日を過ごしていた自分にとって、初めて入った寄席はとても癒される場所でした。いい歳をしたおじいさん達が、バカバカしい話を、大真面目にしている姿を「自分もこんな風に生きていけたらな」と、とても羨ましく思いました。働くだけの人生に、嫌気がさしていた時期もあり、そんな時に落語を知り、落語家という人生に少しづつ憧れるようになっていました。そして、なぜか「落語なら自分にもできそうだ」とまるで根拠のない自信が湧きあがってきたのです。なぜそんな自信が生まれたのか、今になっても自分でもまったく分かりません。

社会人経験が活きた? 気の利いた入門希望者。

プロの落語家になるには、必ず誰かプロの落語家に入門します。師匠のいない落語家は一人もいません。私は新作落語をやってみたかったので、新作落語のバイオニアである師匠円丈に入門しました。落語家というのは通常、昔から伝承されてきた噺を覚えて演ずる人がほとんどで、自分で落語を作る落語家は落語家全体からみてわずか数パーセント程度です。私は落語を聽くうちに、「自分でも落語を作ってみたい」という気持ちが強くなりました。古典落語よりも現代をネタにした新作落語の方が「より笑了」という単純な理由と、クリエイティブなことに対する漠然とした憧れがあったからです。電話帳で師匠宅の住所を見つけ、入門のお願いに直接お宅に伺いました。その際、履歴書、職務経歴書、自作の落語3本、菓子折り、また師匠が犬を飼っていることを知っていたので、ドッグフードを手土産として持参しました。通常、手ぶらで入門のお願いに来る入門希望者がほとんどなのかな、「気が利くやつ」と思われたことや、何より自作の3本の落語を気に入ってくれたことで、すんなりと出入りを許されました。その後、さらに何本か新作落語を作ったところで「創作もそれなりにできそうだから」ということで入門を許されました。新作落語志願の私でしたが、落語の基本は古典落語なので、普段は古典落語を演ずる方が圧倒的に多いです。

自分にもできる、となぜか初めて思った。

自分の反省として、学生時代は自分のやりたいことが何だか分からず、将来について真面目に考えてもいませんでした。何を勉強してよいのかも分からぬまま埼大を卒業してしまいました。子どもの頃から、周りから「褒められる」という経験をあまりしていなかったせいか自分に自信がなく、「自分にはきっと何もできないだろう」という気持ちが強くあったので、流されるままに過ごしていました。「自分にもできる」となぜか初めて思ったのが落語であり、どうにか今まで来て、本年3月真打に昇進させていただきました。生涯の仕事を見つけるのは早いに越したことはありませんが、社会に出て初めて、本当に自分がやりたいものに出会えることもあると実感しています。もし埼大で学び直せるのなら、落語に通じる江戸文化や民俗学、あるいは、仕事柄、町おこしのイベントに呼ばれて、寂しい地方都市を目にすることも多いので、地域社会の活性化に関して勉強してみたいと思います。

volume 05 Special interview

自分にもできる!  
信じて進めば、道は拓ける。



1994年3月 経済学部経営学科卒業  
埼玉県大宮市(現さいたま市)出身  
本名:三上 尽

- ◆2001年 2月 三遊亭円丈に入門
- ◆2001年 7月 楽屋入りして前座名「かねう」
- ◆2004年11月 二つ目に昇進。三遊亭ぬう生
- ◆2015年 3月 真打に昇進。三遊亭彩大

真打昇進にあたって師匠が「真打名は自分で考えろ」と。そうかと言つてなんでも良いというわけではなく師匠が許可してくれる名前を考えないといけません。円丈門下は、地名由来の名前が多いので、それならば師匠も許可してくれるだろうと思いまして、埼玉(彩の国)の大宮出身ということで「彩大」という名前を考えました。



昇進記念パーティー

# 埼玉大学学生後援会は埼大生を多方面から支援しています。

## 埼玉大学学生後援会の主な事業

埼玉大学学生後援会では、学生の保護者の方からの会費および本学教職員のみなさまからの賛助金により、次のような種々の学生支援事業を行っています。

### ■ 就職活動の支援

平成26年度予算600万円

学生のキャリア設計にとって重要な就職活動に対しさまざまな支援を行います。

1. 就職ガイダンス援助費
2. 就職情報調査・提供援助費
3. 就職相談経費



自己分析セミナー

### ■ 国際交流の支援

平成26年度予算225万円

国際力のある学生を育成するため、海外留学、海外での論文発表等に対して援助を行います。

1. 学生の海外派遣等に伴う経費
2. 大学院生の海外における学会発表援助費



スウェーデン リンショーピン大学

ドイツ エスリンゲン工科大学

### ■ 学生表彰、自主的活動・課外活動の支援

平成26年度予算825万円

学術研究や競技会等で優秀な成績を収めた学生の表彰、課外活動等に対して援助を行います。

- 学生表彰事業
- 学生の自主的活動等支援事業

1. むつめ祭(学園祭)援助費
2. 地域貢献等事業費



関東甲信越大学体育大会

### ○ 学生の課外活動助成に関する事業

1. 大会・コンクール等への遠征援助費
2. 物品援助費
3. 課外活動団体外部講師経費
4. リーダーシップトレーニング研修援助費
5. 課外活動施設維持管理支援経費

### ■ その他学生の福利厚生費、事務費、予備費、積立金

平成26年度予算1,269万円

日本の社会が抱える重大な課題にグローバリゼーションとイノベーションがあります。国を越え、あるいは専門分野の枠を超えて交流し、ものごとを思考する、判断する、表現する、そして新しい価値を創造する、そういう力をもつ人材の育成が国立大学に期待されています。

学生にとって大学生活は多岐にわたりますが、主軸はやはり「学修」です。学生には、この意味と喜びをしっかりと捉え、予測困難な時代に必要な「力」を身に付けるとともに、主体性を持って多様な人々と協働する経験を数多く積んでほしいと思います。この意味で、埼玉大学では、国際標準の学修の提供を最重要事項の一つとして人材育成の質的強化に取り組んでいます。と同時に、図書館の増改築やラーニングコモンズの設置、安全で快適な学内ネットワークの維持やWeb学生システムの更新、学生食堂のリニューアルなど、学修環境の整備を図っています。

一同窓生でもある私が学長になって1年が過ぎ、母校、埼玉大学をより一層輝かせたいとの想いは強くなるばかりです。これからも、自他共に誇れる「知の府」としての埼玉大学を、活気があり活力みなぎる大学として埼玉から世界へと展開していきます。そのためには大学の構成員が一丸となって、存在感ある埼玉大学を作り上げていかなくてはなりません。埼大生にあっても、それぞれにそれぞれの場で活躍し、ダイナミックに変革する埼玉大学の一翼を担ってほしいと思います。

このような状況にあって、埼玉大学学生後援会の意義、つまり教職員と学生の保護者のみなさまとの連携のもとに、学生への支援を側面から行う意義はとても大きいものと考えています。

みなさまのご理解と、学生後援会への格段のご協力をお願い申し上げます。

埼玉大学長 埼玉大学学生後援会名誉会長 山口 宏樹

## 入会および増口のお願い

学生後援会入会につきまして、ご子息・ご息女等の入学手続き時にお願いしていますが、未入会の方及び増口いただけの方は下記のとおりお願いいたします。

### 【会 費】 一口 10,000円以上

#### 【申し込み・納入方法】

- 同封の「払込取扱票」により郵便局で払い込みをお願いいたします。
  - 「払込取扱票」記載例では、埼玉大学学生後援会加入金を1口で案内しておりますが、2口以上でも納入いただけます。
- なお、会費につきましては「振替払込請求書兼受領書」をもって領収書に代えさせていただきます。
- ※ 口座名義上、加入者名は「学生後援会・学生教育研究災害傷害保険」となっておりますが、会費は学生後援会の会費として反映いたします。なお、今回の払込取扱票では学生教育研究災害傷害保険には加入できません。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

担当:埼玉大学学務部学生支援課

TEL:048-858-9042(平日9:00~17:00)

埼玉大学後援会HP【埼玉大学HPトップページからアクセスできます】  
<http://park.saitama-u.ac.jp/~koenkai/>

## 支援事業に対する学生の声

### ▶▶▶ むつめ祭常任委員会

Voice  
01

むつめ祭常任委員会は、毎年秋に行われる本学の学園祭「むつめ祭」を企画運営する団体として活動しています。

むつめ祭は、学生・教職員の協力を得て、各研究室・サークルの発表や模擬店の出店など、多くの学生が参加しています。また、本学の関係者のみならず、地域住民の方々や本学をめざす受験生のみなさまにもご来場いただき、本学を楽しみながら知っていただける機会でもあります。

むつめ祭は、準備や片付けの期間を含めると4~5日を要する行事であり、来場者も1

万人を越えます。学生後援会からは、祭期中に出る廃棄物の処理および教室を発表できる会場に転換させる工賃の支援をいただいている。

祭費は、むつめ祭に参加する学生から徴収する諸費用で物品を購入し、我々委員会も経費削減に努めていますが、学生後援会からの支援がなければ相当な負担を強いられます。

今後も継続して支援をいただき、参加者・来場者の双方が満足できるむつめ祭を開催できるよう、我々も一層努力してまいります。



### ▶▶▶ 埼玉大学イルミネーションプロジェクト実行委員会

Voice  
02

埼玉大学イルミネーションプロジェクト実行委員会は、埼玉大学・桜区役所・埼大通り商店会のみなさまなどのご協力の下、大学と地域を結ぶ「笑顔の架け橋」となるべく活動しています。

主な活動は12月に埼玉大学キャンパスを彩るイルミネーション点灯があります。イルミネーション点灯にはたくさんのライトを使用しますが、学生後援会からはライトの購入費用の一部を支援いただいている。

ライトは屋外に約一か月間設置されるため、断線や浸水などで1~3年ほどで寿命を

迎えることが多く、毎年ライトを買い足す必要があります。埼大イルミが毎年多くの方々に楽しんでいただいているのも、後援会からの支援のおかげだと思います。

昨年の点灯では新しい試みとして特殊なライトや自作の簡易LED電球などを使用したイルミネーションに挑戦し、多くのお客さまに喜んでいただきました。私たち委員会がこれからも新しいことにチャレンジするうえで、学生後援会からの支援は大変有意義なものである感じます。

### ▶▶▶ 学生表彰

経済学部吉田ゼミ「ゆるちゃろいど開発チーム」  
大塚愛真、安斎昂泰、堀田康博、松丸真子

Voice  
03

この度は、学術研究等の成果が優れていると認められた団体として「学生表彰」を受賞できたことを心より嬉しく思います。表彰式開催関係者、それを支援してくださったみなさまに感謝申し上げます。

私たちは富士通(株)の「有償開放特許」を利用した商品開発を、経済学部吉田智也准教授のゼミナール活動の一つとして行ってきました。そして2014年12月に開催された「地域対抗「知財活用アイデア」プレゼン全国大会in東京」において、開発した商品のプレゼンを行い、最優秀賞を受賞しました。現在

でも引き続き、各関係企業の協力のもと、商品の製造・販売を目指しています。

今回の活動では、埼玉県内の企業・支援団体を始め、さまざまな方の支えがあり、このような環境に恵まれたのは埼玉大学だからこそだと考えています。

私たち学生にとって、自身の学び舎である埼玉大学から功績が認められることは、何よりも嬉しいことであり、今後の活動の励みにもなります。みなさまの激励を糧に、埼玉大学を中心とした繋がりを大切にしながら、今後とも活動に打ち込んでいきたいです。



埼玉大学経済学部  
吉田ゼミ「ゆるちゃろいど開発チーム」



MAKIKO  
SUETSUGU



トビタテ!留学JAPAN  
日本代表プログラム 第1期生  
末次麻希子

大学院理工学研究科物理機能系専攻  
機能材料工学コース 博士前期課程2年  
栃木県立宇都宮北高等学校出身

## 留学を価値あるものにするしないは、本人の目的意識と行動力次第。

### 自分で決める自由度が魅力。

  
「トビタテ!留学JAPAN」の第1期生として留学できたことを光栄に思いますし、国際室職員のみなさんなど丁寧に力強く支援していただいた方には感謝しています。

トビタテは留学初心者には最適な制度ですね。事前と事後研修があり、準備サポートと戻ってからのフォローがしっかりしています。決められたコースのレールに乗っていく留学と違い、行き先や向こうでの行動スケジュールを自分で決める自由度のあるところも魅力です。元々留学したいと考えていて、先生の勧めでこの制度を知り応募しました。選考は留学への抱負と計画書の提出による書類選考、そして面接を経て採否が決まります。全国の大学生から多数の応募があり、かなりの高倍率だったと聞いています。

留学先是スウェーデンのリンショービン大学です。埼大で行われたフロンティアフォトニクスというカンファレンスで、リンショービン大学のホルツ先生が招待講演され、自分の研究に近いことと高度な研究環

境が整っているため、行くならスウェーデンと決めていました。リンショービン大では研究室で実験の日々。装置が空いていない日は論文を読んだり、ホルツ先生とディスカッションしたりして過ごしていました。

現地での生活は、一般家庭の空いている部屋を間借りする半ホームステイ、半アパート自活のような暮らしだけ。キッチンとトイレは専用、洗濯とお風呂は家族と共に用いた形で、スウェーデンではこのような形で学生に部屋を提供するのは普通に行われているようです。家族のみなさんは本当に優しく親切で、他のさまざまな経験と合わせてですが、大のスウェーデンファンになってしまいました。

### 目的意識をしっかりと実行すること。

留学中に私自身が変わったと思うのは、瞬時の決断力がついたことです。ホルツ先生に「君はどう考えるんだ? どうしたいのか?」と、常に即答を求められます。「ちょっと考えさせてください」なんて悠長なことを言っていると、機を逸して取り残されてしまいます。普段の生活や大学関係者、友人

との会話のなかでも即決即答の場面は多く、優柔不断だった私は随分鍛えられました。

留学に憧れている人は多いと思いますけれど、外国に憧れるのと留学は違うと認識してほしいです。自分が何をしたくて、留学で何をしなくてはならないのか、目的意識をしっかりと持つて行かないと、心持ち次第で価値あるものにも価値のないものになってしまふと思います。私は4ヶ月間の短期でしたけれど、長く行っているよりも短期間にスパッとやりたいことをいっぱいやって実の詰まった留学だと自負しています。もうひとつ最後に、せっかく外国に行くのですから研究室に閉じこもらずに、いろいろな場所に行って見聞を広めることも大切。私も時間をつくってたくさん見てきましたよ。



「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN～」の第1期生として、スウェーデン留学を実現させた埼玉大学大学院日本人学生と、国費留学生として本学経済学部に学ぶアメリカ人留学生が、留学の魅力を語ります。



国費留学生  
スタインキャンプ  
ショーン ブランdon

経済学部2年  
米国カリフォルニア州サンフランシスコ出身



STEINKAMP  
SEAN  
BRANDON

## 留学は勉強・研究だけじゃない。 その国や地域を知り、自分の見識を拡げること。

### 経済を学び、グローバルビジネス展開を目指すために。



埼玉大学に入学する前は、大阪大学で1年間語学研修を受けていました。文科省の国費留学制度では5年間奨学金の支給を受けますが、最初の1年間は阪大か東京外語大で日本語を勉強して、その後の4年間は他の大学に進学して自分の専攻分野を履修する決まりになっています。大阪といつても箕面市というすごい田舎に住んでいて、阪大の先生からノシシやサルが出没するから気をつけろと。とくにそのような環境も嫌いではないのですが、留学先に埼大を選んだのは、やはり東京に近いのがひとつ理由、そしてもうひとつは、経済を学びたくて日本に来たので、経済系カリキュラムが充実している大学というのが決定打でした。

アメリカでは、サンフランシスコのCCSF(シティカレッジ サンフランシスコ)でスポーツ医療を専攻していました。しかし、医療に従事するとカリフォルニア州だけしか働けません。経済を学べば世界中のどこに行っても通用すると考えて方向

転換を決意しました。さらに、小さいときから日本に興味があり、グローバルビジネスを自ら展開したい夢をもっていましたので日本に留学することを決めました。

### 留学の魅力は自分の見識が大きく広がること。

日本に留学するにはどうしたらよいか、資金がふんだんにあるわけではありませんから、奨学金制度をネットを使って調べました。最終的にいま利用している制度に行きつきましたけれど、探せばたくさんあることにも気付きました。留学したいけれどお金がないと諦める学生がいたら、そんなことはないと言いたい。国、大学、企業などが本当にたくさんの留学(奨学金)制度を提供しています。きっと自分にマッチした制度が見つかること思います。

留学は自分の専攻分野の追求が主目的ですが、他国の人たちとの交流のなかで自分の見識が拡がることも大きな魅力です。私の留学観は、その地に長く住んで、生活して、文化を含めた世界観まで共有できることがベストと考えます。言葉はいくら本を読んで頭で覚えて実生活ではまず使



物になりません。その国のネイティブと友だちになり遊んでいればすぐに使える言葉を覚えます。ただし、文化や習慣の違いは必ずありますから、それを自分には無理と排除せずに、認めて懐に飛び込む柔軟性は必要だと思います。

将来的には日本で、イギリス風のカフェを営みたいと考えています。そのため埼大で経済や経営を学び、卒業後は貿易会社に勤めてグローバルビジネス実務を経験しながら資金をためてと、夢の実現へのプランを着々と進めているところです。



2014.09.28  
教育学部3年趙睦熙さんが第30回全日本学生柔道体重別選手権大会で優勝

日本武道館で開催された同大会の女子57kg級で、教育学部保健体育修3年の趙睦熙さん(写真右端)が優勝されました。趙さんは本学の柔道部に所属しており、準決勝では全日本選抜柔道体重別選手権大会で3位の実績を持つ選手を下し、決勝では日本代表チーム選手を下して、初優勝を飾りました。



2014.10.25  
第4回埼玉大学ホームカミングデーを開催

埼玉大学ホームカミングデーは、同窓生が旧友や恩師と再会し、また現役教職員との親睦を深めていただくため、そして何より「母校の近況を知りたい」という思いを込め、埼玉大学同窓会の全面的なご協力の下で開催しています。今回は歓迎会の中で、学術研究などの成果が優れている学生や課外活動の成績が特に顕著である学生などを表彰する学生表彰式を行いました。



2014.10.28  
「デートDV防止講座」を開催

本学男女共同参画室は、さいたま市男女共同参画推進センターとの共催で学生を対象とした「デートDV防止講座」を開催しました。講師からは「デートDV」の概要やその問題点などに触れ、誰もが被害者にも加害者にもなりうる身近な問題として意識することの大切さを講演していただきました。今回、約60名の学生が参加し、講演後には積極的に質問する姿が見られ、このテーマに対する関心の高さがうかがえました。



2014.11.07~09  
「コラボさいたま2014 さいたま市商工見本市」に出演

さいたま市・さいたま商工会議所・(公財)さいたま市産業創造財団の主催により開催された「コラボさいたま2014さいたま市商工見本市」に本学はブースを出し、産学官連携事業のパネル展示や3Dプリンターの実演を行いました。子どもから大人まで、幅広い年齢層の方々にお越しいただきました。



2014.12.06  
第15回 埼玉大学教育学部音楽教育講座教員による演奏会「音楽の贈りもの」を開催

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールにて、教育学部音楽教育講座教員による演奏会「音楽の贈りもの」を開催しました。毎年、本学の地域貢献活動の一環として開催しており、今年で15回目となります。国内外の第一線で演奏経験をもつ教員によるフルート、ピアノ、ヴァイオリン、そして声楽の質の高い演奏で観客を魅了しました。



2014.12.06  
「地域対抗「知財活用アイデア」プレゼン全国大会in東京」で埼玉大学チームが最優秀賞を受賞

「地域対抗「知財活用アイデア」プレゼン全国大会in東京」が中野センターラバーアクで開催され、埼玉大学チームが最優秀賞に輝きました。全国から地区大会を勝ち抜いた10大学が参加するなか、経済学部吉田ゼミ2年生4名の学生は「マスクットロボット技術を利用した商品開発」と題して発表を行い、独創性あふれるアイデアで新産業創出への貢献が大いに期待されると評価されました。



2014.12.06  
留学生と企業を結ぶ「第6回埼玉ワールドカップ」を開催

本学総合体育馆にて、「第6回埼玉ワールドカップ」を開催しました。「フットサルを通して埼玉大学に来ている留学生と、埼玉県内の企業の交流を促進する」ことを目的としており、今回は、6つの企業チームと9カ国(留学生チーム)が参加しました。企業の方と留学生がともに汗を流して交流を深め、大変有意義な大会となりました。



2014.12.08  
「埼大イルミネーション2014 点灯式」を開催

埼大前公園にて、「埼大イルミネーション2014点灯式」を開催しました。今回の制作テーマは「埼大アミューズメントパーク」。発光ダイオード(LED)ライトや角材などを使って、観覧車やジェットコースターなど遊具をイメージした10作品を正門、大学图书馆前広場(さる山)など学内キャンパスに展示し、点灯期間中は多くの人に楽しんでいただきました。



2014.11.09  
「高校生のためのグローバルセミナー」を開催

埼玉県内の高校生を対象とした「高校生のためのグローバルセミナー」を大宮ソニックスにて、グローバル人材育成センター埼玉(GGS)との共催で開催しました。参加者が7つのグループに分かれ、異文化理解、多文化共生など様々な課題についての解決策を、本学の留学生や日本人学生とともに議論し、アクションプランとしてまとめた後、各グループごとに発表が行われました。



2014.11.10  
本学学生が埼玉県知事に政策提言を行いました

本学の学生が上田清司埼玉県知事に政策を提言する「知事と学生の意見交換会」が本学で開催されました。若者の感性を県政に生かすとともに、大学が生きた学習の場として活用することを目的として企画されたもので、今年で5回目となり、これまでに3つの政策提言が採用されています。今回は4つのテーマが提言され、発表ごとに上田知事と学生との間で活発な質疑応答が行われました。



2014.11.16  
教育学部音楽専修による音楽学園祭「埼玉大学フレッシュコンサート」を開催

埼玉りそな銀行本店講堂にて、今年で11回目となる教育学部音楽専修による市民のための音楽会「埼玉大学フレッシュコンサート」を開催しました。学生自身が編曲を手がけた合唱曲や劇曲のみ深い曲を、ピアノ独奏・連弾・サクソフォーン・ヴァイオリン独奏・ソプラノ独唱、混声四部合唱等で、日頃の練習成果を披露し、観客は美しい音色の競演に静かに聴き入っていました。



2014.11.22~24  
第65回むづめ祭を開催

今回は「~埼色兼魅~」をテーマとして、学生や地域の方々、参加するすべての人の想いや情熱によって埼玉の魅力を伝える学園祭という願いをこめて開催しました。屋内外イベント、多数の模擬店、そしてプロによるお笑いライブやコンサートなどで盛り上がり、来校された多くのみなさまに楽しんでいただきました。



2014.11.27  
「未来の可能性を創造する『先端ロボット』産学官連携セミナーin埼玉大学」を開催

「未来の可能性を創造する『先端ロボット』産学官連携セミナーin埼玉大学」を、埼玉りそな産業経済振興財団、埼玉りそな銀行との共催で開催しました。学内で「先端ロボット」に関する研究を行っている15名の教員から、講演と研究内容を示したパネルやデモ機を展示しながら説明があり、多くのみなさまにご参加いただきました。



2014.11.28  
「第6回男女共同参画室講演会」を開催

山崎美稀氏(株式会社日立製作所日立研究所主任研究員・工学博士)を講師として招き、「第6回男女共同参画室講演会」を開催しました。「女性研究者の未来への期待~製品設計の未来を切り拓くマルチスケールテクノロジ」と題した講演があり、日本と世界での女性の活躍状況を、データを用いながら説明していただきました。



2014.11.29  
「埼玉学のすすめ」バスツアーを実施

県内在住の外国人留学生が日本人学生(留学経験者)とともに、宮沢湖(飯能市)、埼玉伝統工芸会館(比企郡小川町)、人形の東玉(さいたま市)を実地見学する「埼玉学のすすめ」バスツアーを実施しました。各地域の案内、レクチャー、通訳、ツアーパンフは日本人学生が担当し、外国人留学生たちは、ユネスコ無形文化遺産に登録された和紙の紙すきなどを体験して、日本の文化・歴史についての理解を深めました。



2014.12.01  
大学会館2階にラーニングコモンズを設置

学生が「能動的学修」、「複数の学生が自律的に自由な発想・方法で学修」ができる場として、大学会館2階にラーニングコモンズを設置しました。グループ学修、ディベート、ディスカッション、プレゼンテーション準備など、さまざまな学修用途に対応できる環境を整備しており、学生の「能動的学修」をサポートします。今後、学生たちは、ユネスコ無形文化遺産に登録された和紙の紙すきなどを体験して、日本の文化・歴史についての理解を深めました。



2015.02.06  
平成27年「埼玉地酒応援団」新春の集いで、埼玉大学ブランド日本酒「鳳翔閣」をアピール

大宮ソニックスにて、平成27年「埼玉地酒応援団」新春の集いで、本学留学生と教員が講演。本学とさいたま市桜区との交流事業である「桜区知識満開講座」が桜区役所プラザウェストで開催されました。第1部では、「留学生から見た桜区」というテーマで経済学部2名の留学生が登壇し、桜区の魅力などについて語りました。第2部では、大学理工学研究科の久保田尚教授が「超高齢化社会の交通を考える」というテーマの下、講演を行いました。



2015.02.21  
「桜区知識満開講座2015」で、本学留学生と教員が講演

本学とさいたま市桜区との交流事業である「桜区知識満開講座」が桜区役所プラザウェストで開催されました。第1部では、「留学生から見た桜区」というテーマで経済学部2名の留学生が登壇し、桜区の魅力などについて語りました。第2部では、大学理工学研究科の久保田尚教授が「超高齢化社会の交通を考える」というテーマの下、講演を行いました。



2015.03.10  
「【健康のための公開講座】～中高年のための健康管理～」を開催

「健康」をテーマとした市民への生涯学習の場として、NTT東日本および大宮アルディージャの協力の下、「【健康のための公開講座】～中高年のための健康管理～」を開催しました。NTT東日本総務人事部医療・健康管理センタ埼玉担当副所長である柴田匡邦氏からは「データで分かる長寿の秘訣」と題した講演、大宮アルディージャのチーフトレーナーである和田哲治氏からは「ストレッチと健康」と題した講演がありました。



2015.03.25  
平成26年度卒業式を挙行

大宮ソニックスにて、平成26年度の卒業式を挙行しました。5学部合わせて1,717名が卒業し、山口宏樹学長から各学部卒業生の代表に学位記が授与されました。